

[外国語]

生徒の学習意欲を喚起する小中連携した外国語指導の試み

— コミュニティスクールの枠組みを活用して —

千原 健志*

1 はじめに

(1) 英語教育の現状

中学校ではまもなく新しい学習指導要領が完全実施される。今回の改訂では小学校に教科としての「外国語（英語）」が導入されることが大きな話題となっている。それに伴って中学校外国語（英語）の学習指導要領についても現行版に比べて、各項目についてより具体的で詳細な規定が行われた。小串は次の4点を改訂内容のポイントとしてあげている。¹⁾ ①教科の目標については、授業改善の方向性が明確化されたこと。②指導の目標についてはCAN-DOによる学力の明確化がなされたこと。③「英語」の内容については言語活動が詳細に規定されたこと。④指導計画の作成と内容に取り扱いについては、実際の指導法にも踏み込んだ17項目にわたる詳細かつ具体的な規定となっている点。である。

総括すれば、「今回の改訂は、抽象的・概括的な規定から具体的・個別的な規定へのシフトと言える。」と小串は述べている。こうした方向性は、指導要領の目標・内容に合わせて授業を企画することが可能になるので、教員の側の負担は軽減されるというメリットを生むと考えられるが、その一方で、指導要領が示す授業内容の枠組みにとらわれすぎることによって教員の創造性を発揮する余地が狭められる懸念もある。我々教員は目の前の生徒の実態を的確に捉え、適切な指導内容を適切な指導方法で伝えることが必要である。

一方、毎日の教育活動を進めていくには、生徒の学習に向かう態度（≡学習意欲）の喚起は不可欠なものである。いかに吟味した指導内容を工夫した指導方法で授業をしても、生徒の学習意欲が低ければ、それは十分に機能しない。指導要領は改訂されても、学習意欲を醸成することの大切さは変わらないと考える。

(2) 本校のコミュニティスクールとしての現状

本校は、コミュニティスクール「直東学園」⁴⁾に所属している。「直東学園」は、小学校4校、中学校1校からなる。地域の多大な協力を得て、教育活動を進め、着実に成果を上げている。一時期は生徒指導困難校と呼ばれた時期もあったが、近年は落ち着きを取り戻している。これは、発足して10年を迎える直東学園の成果の一つである。様々な行事に地域の方々が参画し、生徒とともに時間を過ごすことで、生徒のよさが地域に広がり、生徒は自信を深め、自己肯定感を高めていくという良い循環ができていく。今後も継続していくことが期待される。

「直東学園」には、教育活動を推進するための組織がいくつかあり、その一つに「直東学園」の教職員で構成される「すこやかネットワーク」がある。この組織には「学力向上」「生徒指導」「キャリア教育」「同和教育」の各部会があり、全教職員がいずれかの部会に所属して学園全体の教育活動に参画している。本研究では、この「直東学園」の組織が不可欠な存在として機能している。

2 主題設定の理由

(1) 目的

本研究は、中学2年生の生徒が小学6年生の授業にリトルティーチャーとして参加するという体験を通して、生徒の英語学習への意欲が喚起され、英語学習への継続した努力につながるかどうかについて、生徒への質問紙調査とその分析を通して、明らかにしようとするを目的とする。

(2) 方法

本実践は、本校の2年生が、出身小学校における6年生の外国語（英語）の授業にリトルティーチャーとして参加し、

*上越市立直江津東中学校

英語でスピーチしたり、英語でやりとりをしたりする出前授業を行い、その準備と授業体験を通して、生徒の意欲がどのように変化していくかを生徒の授業の様子や質問紙調査等のリアクションから見取ることにより、前述した目的が達成されたかを検証する。

(3) 実践の背景

本研究は直東学園すこやかネットワークの学力向上部会の一事業である「小中連携出前授業」として行った。学力向上部会では平成26年度から平成28年度まで中学校教員が小学校に訪問して6年生に対する出前授業を行い、中学校の英語授業体験を行っていた。指導内容としては、中学校で頑張りたいことをI want to ~の文で発表することを目標としたものである。小学校の学びと中学校の学びを結ぶブリッジ教材として、特設单元的に実施していた。具体的には当時小学校で使われていた教材⁵⁾ Hi, Friendsの最後の単元で扱う「“My dream” 夢を語ろう」のI want to ~の表現との共通性を活かしたものである。

このように出前授業の始まりは、小学校外国語活動の授業支援であったが、その後、生徒指導的な小中連携の意味付けも加わり、複数の教員が各小学校を訪問し、外国語（英語）授業における児童の様子を観察することで、より多面的な情報交換の機会としての意味も加わっていった。

この実践にさらなる発展がみられたのは、平成29年度から配置されている英語専科教員からの中学生の訪問を加えた交流を行おうという打診であった。この英語専科教員は、直東学園内の中規模小学校2校を兼務して英語指導に当たっていた。もともとは中学校教員として採用されたが、一年前から小学校の外国語の授業を担当する専科教員として勤務していた。

小中交流のために中学生が小学校の授業や行事に参加することは、全国的にも実践が見られるが、外国語の授業にリトルティーチャーとして参加するのは、あまり例がない。特に中学生が通常の授業時間内に小学校を訪問するには、受け入れる小学校側の理解はもちろんのこと、送り出す中学校側でも校長、教頭の理解と協力はもちろん、学年主任や学級担任の了解、一部の生徒が小学校を訪問している間の授業の扱いをどうするかなど、教育計画において柔軟に対応する必要があるので、学校全体の理解と協力が必要である。これらの協力は、小学校教員と中学校教員が互いに顔が見える関係を構築し続けているコミュニティスクールとしての「直東学園」ならではの一体感が根底にあること、また連携に対する高い意識があったことは言うまでもない。

3 研究の実際

(1) 指導計画の作成

本実践は、小学校と中学校の指導計画のコラボレーションである。双方の学習内容をリンクさせ、双方にメリットがあるように指導を進めていく必要がある。今回は小学校の使用教材である「We Can 2」の“Junior High School Life”と「Sunshine English Course 2」のProgram 9 “Video Project”という単元を使用した。

小学校で使用した“Junior High School Life”はその題名の通り、中学校の生活について英語を通して理解していく単元である。6年生の単元の最後に配置されており、中学校への接続を意識した内容である。一方、中学校で使用した“Video Project”という単元は、交換留学生に学校を紹介するビデオを作成するという設定で、部活動や学校行事について英語で生徒が説明する内容である。

そこで、小学校英語専科教員との協議を通して、小学校側は、実際に進学する予定の中学校の様子を、実際に今通っている中学生から直接英語で紹介する場面をクライマックスとするゴール設定で指導を進めることとした。また、中学校側は、単元の最後に、学校紹介についてスピーチすることを最終目標とし、希望者を募り、小学生の前で発表する。というゴール設定で指導を進めることとした。

(2) 指導の計画の概要

小学校 使用教材：We Can! 2 “Junior High School Life” ²⁾	中学校 使用教材：Sunshine English Course 2 Program 9 ³⁾ Video Project
中学校生活について話を聞き、必要な情報を聞き取ろう ・Let's Watch and Think 1 中学校生活の映像を視聴し、興味を高める。(授業、行事、部活動)	新出文法を習得しよう ・比較級、最上級の使い方 ・英語ゲームを使った導入、文法事項を使う練習、問題集を使った定着

<ul style="list-style-type: none"> ・どんな行事があるのかを知ろう <p>教師の説明を聞き、どのような行事があるのかを知る。楽しみな行事を紹介する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書本文（パート1）の確認準備 ・新出単語調べ、本文のチャンク読み、内容確認 ・イメージマップを使ったスピーチの構想づくり
<p><u>どんな部活動があるかを考えよう</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動の言い方を知る。 ・自分が入りたい部活動について話す。 ・中学校の部活動について、How many ~? や Do you have ~? を用いて、質問したいことを班ごとに考える。 	<p><u>スピーチを作ろう</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書のモデルを参考に、スピーチの第一稿を作る。 ・グループで互いに読み合って推敲する。 ・ALTとの話し合いで添削、校正。清書の完成。 ・スピーチ練習（個人&グループ） ・ALTの前で発表のリハーサルを行う。
<p><u>部活動紹介を聞いて、必要な情報を聞き取ろう</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつリレー <p>訪問してくれた中学生の人数分のグループで順に挨拶や自己紹介をし合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動紹介を聞こう <p>中学生の発表を聞く。分かったことをペアで伝え合ったり、発表したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問をしよう <p>分からなかったことや知りたいことを質問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Write! "I want to join the ~ club." 	<p><u>小学校訪問を成功させよう</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介スピーチ <p>簡単な英語で自分をPRする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校紹介スピーチ <p>Show and Tell方式で学校を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生と交流しよう（質問タイム） <p>小学生の質問に英語であるいは日本語で答える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作文支援 <p>6年生児童のライティング活動を手伝う。単語の綴りや語順などを教える。</p>

(小中教員で協同して作成した指導案の一部から抜粋)

(3) 交流の実際

① 訪問生徒の決定

小学校を訪問する生徒の決定にあたっては、原則として希望制をとった。すべての生徒にチャンスを与えるためである。中学校の学年主任も「次の年の新生生とつながるいい機会なので、ぜひその方向でやってほしい」と同意をいただいた。なお、訪問先の学校は、原則として出身小学校とした。元々もっている人間関係を大切にするためである。ただし、小規模な小学校については、他の出身小学校の生徒からボランティアで参加してもらった状況もあった。

授業に参加する人数は1学級あたり5名、班ごとの活動を行うため小学校のクラスの班の数と合わせた。訪問小学校は直東学園全体で6年生が7クラスなので、35名であるが、小規模校では卒業生の人数が少ないため、重複して参加した生徒がいたため、実際には33名が訪問した。

② 授業の実際

次に、授業の流れにしたがって、感想を交えて紹介する。

活動1：【挨拶リレー】…自分の名前を言い、相手の名前を尋ねる。班の中で一周する。

活動で使った表現	小学生の感想	中学生の感想
A : Hello. How are you? B : I'm fine. And you? A : I'm fine too. I am ○○. What is your name? B : I'm △△. A : Nice to meet you, △△. B : Nice to meet you, too.	<ul style="list-style-type: none"> ・緊張したけど楽しかった。 ・緊張して、思うように話せなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分も目の前にいる小学生と同じレベルだったなあと思いました。

活動2：【学校紹介スピーチ】…中学生が写真を見せながら、中学校の生活について英語で紹介する。

活動で使った表現	小学生の感想	中学生の感想
Hello, everyone. I'm Ken. Nice to meet you. Look at this picture. This is our gym. We can play here after lunch. It's very fun. Thank you for listening. We are waiting for you. See in you Naoetsu Higashi JHS.	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介がくわしくてよく分かった。 ・中学校が楽しみになった ・早く中学校に行きたくなった。 ・わからない単語が多くて、どうしようと思った。 ・レベルが高いなあと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめはすごく緊張したけどやっているうちにすごく楽しくなった。 ・小学生が自分の話を真面目に聞いてくれてうれしかった。 ・小学生に中学校のいいところを教えることができた。

活動3：【中学校の様子を尋ねよう】・・・小学生が英語を用いて、中学校生活について尋ねる。（日本語を交えてもよい。）

活動で使った表現	小学生の感想	中学生の感想
A：What is Sports Day? B：Sports Day is Taiiku-sai. It's very fun. A：Do you have a swimming club? B：Yes! We have a very big swimming pool. Let's enjoy together.	・英語で言えないことがあっても、優しく聞いてくれた。 ・目を見て話してくれて安心した。 ・先輩の笑顔で安心できた。	・小学生と英語で関わることができて楽しかった。 ・行事の意味などを伝えるときにコミュニケーションができて良かった。

活動4：【やりたいことを話そう】・・・小学生が中学校に入学してやってみたいことをスピーチする。中学生はスピーチに対して簡単に感想を返す。

活動で使った表現	小学生の感想	中学生の感想
A：I want to play baseball . B：Oh, really? I'm a member of baseball team. Let's play together.	・I want toがうまく使えた。 ・相槌を打ちながら聞いてくれてうれしかった。 ・部活動が楽しみになった。	・小学校は英語の活動に力を入れているなど感じた。話す力を身につける機会だった。 ・小学生の話が聞きとれた。

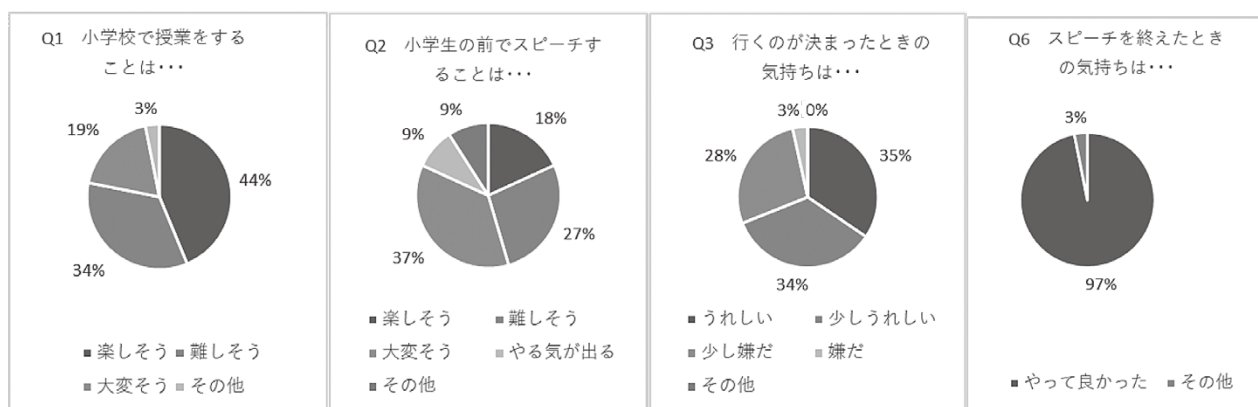
活動5：【やりたいことを書こう】・・・小学生が中学校に入学してやってみたいことを英語で書く。中学生は文の書き方を教える。

活動で使った表現	小学生の感想	中学生の感想
I want to enjoy Sports Day. I want to play basketball. I want to study English very hard. I want to get 100 points on the test.	・自分の文字を見せるのは恥ずかしかったけれど、中学生が丁寧に読んでくれてうれしかった。 ・自信がなかったけれど、中学生が褒めてくれてほっとした。	・書くことをチェックするのは初めてだったけれど、自分も間違いやすい部分があったので勉強になった。 ・正しい英語を教ええないといけないので緊張した。 ・自分より字がうまいなあと思った。

4 考察

本実践の目的は、中学2年生の生徒が小学6年生の授業にゲストティーチャーとして参加することを通して、生徒の英語学習への意欲を喚起することである。ここからは、訪問後のアンケート調査から生徒の意欲の変容を読み解いていく。

(ア) 気持ちの変容について



上のグラフが示すように、この実践前における生徒の気持ちは、Q1に示されるように、難しそう、大変そうという否定的回答が多い。またQ2でも否定的回答が64%、と取り組む前の段階では、否定的な気持ちをもっていたことがわかる。しかし、Q3の質問にあるように、自分が参加することが決まったときには69%の生徒が肯定的回答をしており、授業の進みとともに徐々に気持ちが高まり、頑張ろうという気持ちになってきたことが見取れる。そして、スピーチを

終えたときの気持ちを尋ねたQ6では、97%の生徒がやってよかったとの感想を持ち、意欲が向上していったことが見取れる。

ちなみに、「その他」と回答した生徒に、思いを確認したところ、「もっと勉強して力をつけたいといけない。」という答えが返ってきた。

(イ) アンケートの自由記述から

次に、アンケートの最後の自由記述から、生徒の意欲向上や英語学習への取組の変容を見取る。

【学校紹介スピーチ発表の活動について】の記述

生徒A「小学生の前で発表するので、普段学校でスピーチするよりも何度も練習した。自分の作文を何度も読み返したので理解が深まった。」

生徒B「スピーチを覚えるのが大変だったけど小学生が話をしっかり聞いてくれてよかったです。」

生徒C「英語でスピーチすることによって自分にも自信ができました。」

分析…小学生という具体的な相手を意識し、上手にスピーチができるように何度も練習するという主体的な学びの追求の姿が見られる。その結果、自分のスピーチについて、文法事項についてより深い理解をすることができたことを自覚している。また、自分でスピーチ練習を繰り返し、暗唱できるまで努力をしたことに対して、小学生が傾聴してくれたことにうれしさを感じている。普段一緒に過ごしていない多くの小学生の前で話すことだけでも、緊張するであろうに、さらに英語で話すという難易度の高い活動に挑戦したことで自己肯定感も上がったことが推測される。

【小学校を訪問したことについて】の記述

生徒D「久しぶりに小学校に行けてすごく懐かしくて楽しかったです。お世話になった先生方とも会えて良かったです。」

生徒E「自分が卒業した学校の後輩と活動がしたくて先生に申し出ました。楽しかったし、やって良かったなと思いました。」

分析…中学生になると部活動などの忙しさや迷惑にならないかという配慮から小学校に行くことがはばかれる気持ちがある。そんな中でこうした交流活動は、懐かしい校舎、先生方、後輩たちと再開するチャンスであることが分かる。住んでいる家も近く、ともに過ごす時間も長い小学校の仲間とのつながりは、生徒たちの大切な思い出として残っている。こうした機会を生かして積極的に参加した姿が見られる。

【訪問後の英語学習について】の記述

生徒F「最初は卒業生だと言うことで選ばれ、「何で俺が?」とっていて嫌だったけど、終わってから自分が苦手な英語を頑張って勉強しようと思える良い刺激になりました。」

生徒G「英語は苦手だけど、小学生に「英語が上手ですね」って言われてうれしかったです。」

生徒H「今回の訪問は関心を持って英語の学習に取り組むよいきっかけになりました。」

分析…希望制で参加者を募ったことで、英語が苦手でも思い切って参加し、その結果、小学生からいただいた言葉で、英語学習への意欲を喚起してもらった姿が見られる。また、日頃の授業だけではマンネリ化してしまいがちな英語学習に対して、このような訪問が意欲の喚起や継続に役立つことが読み取れる。元々は積極的に参加したわけではなかったが、小学生との活動を経て、意欲を持ち始めた姿も見られた。



本番直前、最後の練習



写真を見せながら英語で発表



目線を合わせて対話を行う



なんでも聞いてね

以上の生徒のリアクションから、中学生にとって小学生の授業にリトルティーチャーとして参加する活動は、生徒の意欲を喚起する機会として十分意義のあるものと考えられる。具体的には前述したように、苦手だった英語学習に対して意欲的に取り組めるようになったこと、話すことの力をつけるために、音読練習をするようになったこと、などがあげられる。加えて、コミュニケーションの具体的な相手を持ち、必要な情報を伝えたいという意識をもつことができたのも大きな収穫であった。また交流したことだけに満足せず、さらに話す力を伸ばしたいという意識なども見られた。

またこうした意欲の向上が英語学習の具体的な成果としても表れ、次年度10月に実施した英検IBAでは、受検者全員の平均725.7点 (n=140) に対して、授業参加者の平均は763.2点 (n=32) と数値的にも高く、意欲的に英語学習に取り組んだ結果にもつながった。

また参加者33名中、3級以上の取得者は16名で、48.5%である。(準2級2名を含む。)平成30年度の文部科学省の「英語教育実施状況調査」⁶⁾によると、全国平均では42.6%なので、全国と比べても高いレベルにあると言える。また、3級以上の取得者16名のうち、9名が本実践の後に合格していることから、高い意欲を保って英語学習に臨む姿が見えてくる。

5 今後の課題

本実践は一昨年度の実践である。二年目となる昨年度も継続して交流授業を実施する予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大による活動自粛で、やむなく全小学校での実施は断念した。とはいえ、校区内2校では継続することができ、中学校内での実践継続の下地は整ってきた。またコロナ禍の中でも、リモートでの交流という新しい可能性もあり、継続は可能である。GIGAスクール構想など、小中連携を進める環境も整いつつある。

今後も「直東学園」というつながりを強みに実践を重ねたい。特にすこやかネットワークの学力向上部会を基盤とした教職員の協力体制は新しい取組を柔軟に取り入れる素地があり、今後も前向きに事業を進めていける可能性が高い。全国的なコミュニティスクールの広がりに伴い、中学生が小学生とともに活動する試みは広く見られる。広島県三次市の中学生による小学生の学習指導事業⁷⁾や東京都練馬区の小中一貫教育の取組⁸⁾などである。しかし、田代によれば、⁹⁾小中連携は特別活動などが中心で教科の連携については差があるのが現状である。英語については沖縄県那覇市の英語学習における中学生の小学校訪問¹⁰⁾など先進的事例はあるが、まだ十分に広がっているとはいえない。

直東学園はコミュニティスクールとしての活動が長く、協力体制が強固に構築されている。特に学校教育活動を4つの部会に分け、全教職員で推進する体制をもつすこやかネットワークは全国的にも貴重な存在である。教育現場の現実的なニーズに柔軟に対応する組織として大いに期待できる。この環境を生かした実践をさらに積み上げていきたい。

6 参考文献

- 1) 小串雅則「新しい学習指導要領のねらい」東京書籍編『中学校外国語学習指導要領を読み解く』2017年
- 2) SUNSHINE ENGLISH COURSE 2 開隆堂 2016年
- 3) We Can! 2 文部科学省 2018年
- 4) 上越市立直江津東中学校ホームページ
- 5) Hi, Friends! 文部科学省
- 6) 「英語教育実施状況調査」文部科学省 2018年
- 7) 「三次市の小中一貫教育」広島県三次市教育委員会
- 8) 「練馬区の小中一貫教育の取組」東京都練馬区教育委員会
- 9) 「小中連携の事例研究」田代裕一 2017年
- 10) 「小学校外国語活動・小中連携の特色ある取り組み」ELECホームページ 2015年